幼児教育において
簡易伴奏とオリジナル譜伴奏での違いはあるか
～幼児がより歌いやすく、音楽的表現に繋がるのは?～

佐　藤　晶　子

Ⅰ．はじめに

ソプラノ歌手として演奏するとき、大半はピアノ（ピアニスト）が伴奏をつとめる。舞台の中央に立ち、ピアニストに開始の合図をおくる。ピアニストのひと呼吸のあと、前奏が始まる。ピアノは、歌手の後方に設置されていることがほとんどのため、背後に感じるピアニストの呼吸と音楽感に自分の音楽感とを融合して聴衆へ演奏をとどける。「歌と伴奏」ではなく「歌とピアノのアンサンブル」としての演奏を心がけている。

演奏本番のために何度かピアノ合わせをする。自分の tempo 感、息継ぎのタイミング、そして、何よりも多いのは「間」の取り方、呼吸を合わせること。本番のために何回合わせをしても本番で何が起こるかは分からない。そのため、ピアニストに助けられることは多々ある。

演奏会でオペラ･アリアをプログラムに入れている場合は多い。歌曲の殆どは「歌とピアノ」によるものであるが、オペラの場合、本公演（本公演はオーケストラ）以外はやはり「歌とピアノ」となる。そんなとき、オペラの内容を理解し、アリアを歌う役柄の物語背景･心情などを理解していてくれるピアニストとのアンサンブルは、すこぶる達成感が得られる。「音源を聞いてスコアを見たら、ベースはもっと楽譜より低音が必要かと思ってオクターブ下げてみたの。どう?!」などと言ってくれるピアニストなどは、「この人とずっと組んでいたい!」と心から思う。

歌手として、ピアノの有り難みは常日頃感じている。長年講師を勤めている、高等学校の音楽授業でも、歌唱や器楽演奏でのピアノ伴奏の重要性は感じている。

では、幼児たちはピアノ伴奏をどのように感じているのか。ピアノ伴奏が違うと、歌い方に違いはあるのか。本稿では、オリジナル伴奏譜と簡易伴奏とを用いての幼児の歌唱の違いを知ることを目的とし、保育園幼稚園で行った実践をレポートして結果を報告する。

Ⅱ．実践計画、報告、アンケート回答

マクドナルド&サイモンズによれば、年齢に沿った歌唱行動の特徴として、「５～５歳半になると、“キー”の感覚が安定し、正確に学べばほとんどの歌を歌うことができるようになる」という。これを受けて、実践は各園１回のみとなるため、各園には年長クラスでの実施をお願いした。

各園での打ち合わせの際、「簡易伴奏とオリジナル伴奏。歌いやすく、より音楽的表現につながるのはどちらか」を踏まえて、著者が何曲か提案し、園の方で実施曲を決定してもらった。提案した曲以外の曲を希望する園もあった。

候補曲は以下であった。

『おもちゃのチャチャチャ』『ふしぎなポケット』『とんでったバナナ』

『クラリネットをこわしちゃった』『山のワルツ』『ゆりかごの歌』

アンケート回答には以下の観点を参考にしながら回答してもらった。

・模範演奏に興味をもっているか？　　・メロディー唱は出来ているか？

・拍感は正しくとらえているか？

・伴奏に“拍”を感じられるような工夫の効果はあるか？

（休符への“間の手”的な装飾音は必要か？）

・前奏あとの歌い始め、間奏あとの歌い始め。「伴奏」を覚えているか？

・後奏も“歌の続き”ととらえ、楽しく聞いていられるか？

・伴奏形の違いにとらわれず、歌えているか？

・簡易伴奏とオリジナル伴奏のどちらの方が、音楽的に歌えていると思われるか？

実施内容はレコーダーとメモを用いて記録した。

〇実施日

1. 平成 29 年 11 月 6 日（月）東部保育園（長岡市内）
2. 平成 29 年 11 月 7 日（火）東部第二保育園（長岡市内）
3. 平成 29 年 11 月 9 日（木）東光こども園（長岡市内）
4. 平成 29 年 11 月 13 日（月）東部川﨑保育園（長岡市内）

１．東部保育園

実践計画　①

□実施予定曲

“おもちゃのチャチャチャ”　“とんでったバナナ”

□目的

『幼児歌唱へのピアノ伴奏の効果』を探る 簡易伴奏とオリジナル伴奏。歌いやすく、より音楽的表現につながるのはどちらか。

□導入

自己紹介＝声楽家の仕事、ピアニストの仕事説明 出前教室の趣旨説明＝ピアノ伴奏の変化によって、歌い方に変化が現れるかどうか

□展開

１．模範演奏＝オリジナル楽譜のピアノ伴奏での歌唱 2. 簡易伴奏での、歌唱練習＝ピアノは旋律を奏でる ３．伴奏を変化させる（歌唱に安定感を感じてから） ①8 分音符 ②シンコペーション

□まとめ

オリジナル譜での伴奏＝園児の歌唱の変化、表情を見る 園児なりの感想を聞く 保育士の方々にアンケート回答をお願いする

報告 ①　「東部保育園」　実施報告

実施日　１１／６(月)　９：３０～１０：１０　(40 分間)　［ピアニスト：平林弓奈］

□実施曲

“おもちゃのチャチャチャ”　“とんでったバナナ”

□目的

『幼児歌唱へのピアノ伴奏の効果』を探る 簡易伴奏とオリジナル伴奏。歌いやすく、より音楽的表現につながるのはどちらか。

□導入

〈自己紹介〉にて“ソプラノ歌手”の仕事と“ピアニスト”の仕事を説明し、今回の

〈出前教室の趣旨説明〉を伝える。

□展開

『おもちゃのチャチャチャ』を〈オリジナル譜において模範演奏〉を行う。静粛に集中して聴いており、一緒に口ずさむ園児もおり、不思議そうな顔で聴いている園児もいた。興味を持ち聴いていることが伝わってきた。

〈園児の歌唱〉を開始。クラス担任によると、歌った経験があるとのこと。「前奏」があることを説明し、模範演奏のときよりも Tempo をゆっくりにし、歌の入りをかけ声で指示し全員で歌唱する。ピアノパートは右手で旋律を奏で、左手は４分音符の簡易伴奏とした。用意した大きい歌詞カードを掲示し、指しながら１、２番とゆっくりと歌唱する。少々、ピアノの Tempo が早く感じたが、園児は頑張って歌詞を目で追い、旋律の流れをつかみながら歌っていた。しかし、２番が上手く歌い進まない感があり 2 番のみ練習をする。拍を感じながら歌うことは重要な要素と考えるので、手拍子で拍を表現し、１，２回目はゆっくりと、３回目は少し速めて更に歌い込む。園児の中には、拍を取りながら歌唱の様子も見受けられた。

〈伴奏の変化①〉ピアノパートの左手伴奏部分を「8 分音符」に変化させ、拍を表現する手拍子を続けながら一度歌ってみる。園児は歌うことに必死の様子で、ピアノパートの変化に気付いていたか疑問を感じた。

3 番 4 番の練習の前に、「間奏」があることを伝え、ピアノのソロに耳を方向けながら、歌への導入を感じるように告げる。ピアニストに「間奏」を 3 回奏でてもらい、園児に間奏後の入りを感じてもらう。歌の入りを感じ取り、3 番を歌い始めた園児もいた。

手拍子を続けながら３番をゆっくり３回歌う。この曲の歌唱部分、１番、３番、４番の冒頭には「８分休符」が書かれているが、その休符を自然と捉えている園児と捉えられていない園児がいるため、休符を正しく感じられるように伝える。練習しているうちに自然と休符を捉えられるようになってきた。

〈伴奏の変化②〉ピアノパートの左手伴奏部分を「シンコペーション」に変化させることを伝え、歌いながら、それを良く聞き取るように、感じるようにしてもらう。次に、ピアノパートの左手を 3 番はシンコペーションで、4 番は 8 分音符に変化させ、同じく歌いながらそれを感じ取るように伝える。すると、歌い終わると「リズムが違う」と発言した園児がいた。

この曲は、4 番のエンディングに「休符」があることを告げ、注意を促す。「チャ　チャ　チャ」の４分休符を正しく捉え、曲の終止を正しく、美しく終えるように伝える。園児達を見ていると、4 分休符を感じて歌えた園児が得意そうな表情をしており、ほ

ほえましく思えた。

園児達に挙手を取り、園児に好むリズムはどちらか聞いてみたところ、14 名がシンコペーションを好み、10 名が 8 分音符を好んでいたのが分かった。

この曲のまとめとして〈オリジナル譜においての歌唱〉をする。幾つかの伴奏の変化を経ての歌唱のため、園児達も「違い」を感じている様子に見えた。

『とんでったバナナ』を〈オリジナル楽譜での模範演奏〉として歌う。集中して聴いている園児、少々飽きはじめている園児も見受けられた。歌唱好きと思われる園児は歌詞カードを読むなど、前向きな反応が見られた。

〈園児の歌唱〉を開始。この曲は 6 番まであるので、「出前教室」2 曲目でもあり、集中を欠いている園児も向けられたので、1 番のみ歌うことにした。ピアニストには右手で旋律を、左手で４分音符の簡易伴奏を弾いてもらう。歌う前に「前奏」をよく聴くように、歌が入るタイミングを感じるように伝える。歌の入りを雰囲気的につかみ、入れる園児もいた。「前奏～歌の入り」の練習を、１，２回目は「歌の入り」のタイミングを伝え、３回目にはそれを告げなくともスムーズに入ることが出来た。

1 番のみを〈伴奏の変化①「8 分音符」〉、〈伴奏の変化②「シンコペーション」〉〈伴奏の変化③「オリジナル譜」〉の順で行う。園児達は、①の場合、違和感なく歌っている。②の場合、耳慣れないリズムなのか、少々戸惑っているように思えた。③の場合、リズムに乗って歌っているように思えた。

園児に「好きなリズム、歌いやすいリズム」はどれだったか、挙手にて答えてもらうと、8 名が①（8 分音符）、7 名が②（シンコペーション）、13 名が③（オリジナル）となった。

□まとめに

〈歌唱時の立ち方・姿勢・口の開け方〉を伝授。それは、両足均等に体重をかけ、両手は脱力して両脇に。手持ち無沙汰のときは後ろ手にする。笑顔のような明るい表情のまま、上向きに“ア”を発声しているような口が好ましいと伝える。

〈仕上げ〉に『とんでったバナナ』を、歌詞カードを見ながら 6 番まで全曲通して歌う。大きな声で、張り切って楽しそうに歌っていた。

□実施しての感想

今回の「出前教室」初回であり、自身の指導キャリアの中で、園児を前にしての「出前教室」も初回のため、諸々の段取り、時間配分等に反省を感じた。しかし、思いのほか園児達の反応が良く、救われた部分もあった。

園の保育士からのアンケート回答にもあった「リズムを口頭ではなく、何か、手拍子や打楽器を使っての表現の方が良かった」とのコメントに、子供目線が足りなかったと強く反省を感じた。

全体的に歌のテンポが速く活発な感じが表現出来ていたと思われる。

アンケート回答　①

実施日　11 月 6 日（月）　　園名『　**東部保育園**　』(回答数 4)

実施曲［　おもちゃのチャチャチャ　］　［　とんでったバナナ　］

♪模範演奏を聴いているときの園児達の様子

・本格的な歌を聞いたのが恐らく初めての子が多く、驚いた表情の子が多かった。聞いた後は「すごい！」と言葉にする子もいた。

・集中してじっくりと聞き入っていた。素敵な歌声に、職員たちも遊戯室へ足が向くという感じだった。

・日頃、聞いたり歌っている歌い方や声の出し方と違ったため、驚いたような表情をしていた。初めての歌声に聞き入っているようだった。

・職員の声とは違い、本物の歌声を真剣な表情で聞いていた。4 番まで歌詞があったので、珍しく感じていたと思う。

♪簡易伴奏での歌唱の様子

・簡易伴奏でもピアノの音色が違う感じがした。元気な歌声はいつも通りだった。

・日頃から聞いている、馴染みのあるような伴奏だったので、歌いやすそうにしていた。

・いつも通りの元気な歌声だったが、緊張している様子だった。

♪リズム変化させた伴奏での歌唱の様子　（リズム変化を感じている?!）

・感じられている子は感じながら歌えていた。

・リズム変化は子供達自身、体でリズムを取っている様子がうかがえた。

・リズミカルに楽しそうに歌っているように聞こえた。

①８分音符

・体でリズムを取りながら歌っているように感じた。どちらかというと、いつも歌っているリズムに近いため、歌いやすそうに見えた。

②シンコペーション

・少しリズムが取りにくそうに感じた。あまり馴染みのないリズムだったので、少

し戸惑うような姿が見られた。

♪オリジナル譜伴奏での歌唱の様子　（音楽の変化を感じている?!）

・オリジナルではきっと後奏があったりと、また違う感じではなかったかと思う。

・音楽としてのリズム感やピアノ伴奏に気付いている子のいたが、歌を歌うには、入り方や拍の取り方が分かれば、どの伴奏でも変わらないように感じた。（子供達の歌い方では）

・伴奏の中でのピアノの音が増えることで楽しく聞こえて、曲に乗りやすい様子だった。

♪全体を通してのご意見、ご感想、コメント

・「おもちゃのチャチャチャ」は普段歌っていなかったり、歌っても 1 番だけだったりしたので、あまり歌えなかったのだと思う。歌詞カードも“カタカナ”の入ったものは初めてだったので、“ひらがな”だけだともっと歌えたと思う。

・リズムの違いを感じられる子は出来ていたが、リズムを言葉で伝えるより、どのようなリズムなのか、手拍子などでやってみると、また違いが分かりやすいのではと思った。

・本格的な歌声に触れることがあまりないので良い機会だった。「遊戯会」前だったので、発声の仕方を教えて貰って良かった。

・歌声の素晴らしさ、本物を聴けて箏に感謝です。今後も音楽の持つ力を子供達と共に楽しんで行けたらと思う。

・子供たちにとって、伴奏の変化を言葉で説明しても、あまりピンッと来ない様子があり、8 分音符・シンコペーションの違いも歌いながら感じ取るには難しいように感じた。その 2 つのリズムだけで、先にピアノ伴奏の違い、先生の歌の見本を聞いてからやっても理解の深まり方が変わって来たように思った。

・初めて聞くソプラノ歌手というプロの歌い方に触れることが出来、貴重な体験が出来たと思う。

・子供達にとって素敵な歌声を聞く良い機会になったと思う。具体的なことや、リズムやピアノ伴奏の変化により、子供達の歌声も変わっていくと思った。

2. 東部第二保育園

実践計画　②

□実施予定曲

“おもちゃのチャチャチャ”　“とんでったバナナ”

□目的

『幼児歌唱へのピアノ伴奏の効果』を探る 簡易伴奏とオリジナル伴奏。歌いやすく、より音楽的表現につながるのはどちらか。

□導入

自己紹介＝声楽家の仕事、ピアニストの仕事説明 出前教室の趣旨説明＝ピアノ伴奏の変化によって、歌い方に変化が現れるかどうか

□展開

１．模範演奏＝オリジナル楽譜のピアノ伴奏での歌唱 2. 簡易伴奏での、歌唱練習＝ピアノは旋律を奏でる ３．伴奏を変化させる（歌唱に安定感を感じてから） ①8 分音符 ②シンコペーション

□まとめ

オリジナル譜での伴奏＝園児の歌唱の変化、表情を見る 園児なりの感想を聞く 保育士の方々にアンケート回答をお願いする

報告　②「東部第二保育園」　実施報告

実施日　１１／７(火)　９：３０～１０：００　(30 分間)　［ピアニスト：永井典子］

□実施曲

“おもちゃのチャチャチャ”

□目的

『幼児歌唱へのピアノ伴奏の効果』を探る 簡易伴奏とオリジナル伴奏。歌いやすく、より音楽的表現につながるのはどちらか。

□導入

〈自己紹介〉にて“ソプラノ歌手”の仕事と“ピアニスト”の仕事を説明し、今回の〈出前教室の趣旨説明〉を伝える。

□展開

『おもちゃのチャチャチャ』を〈オリジナル譜において模範演奏〉を行う。静粛に集中して聴いてくれていた。不思議そうな顔で聴いている園児もいた。

〈「前奏」を感じさせる〉ピアニストに「前奏」だけ演奏して貰い、園児に歌の入りを感じてもらう。3回目には、「入り」を感じた園児が歌い始めた。

〈園児の歌唱〉このクラスは、1、2番はよく歌うが、3、4番はあまり歌った経験がないとのことで、1番、2番をゆっくりなTempoにして、ピアノは右手で旋律、左手で4分音符の簡易伴奏を弾いてもらう。掲示した歌詞カードを指さしながら、ゆっくりと歌う。

この曲の歌唱部分の冒頭には「８分休符」が書かれている。その休符を正しく捉えられるようにカウントを示しながら、より「8分休符」を感じてもらう。1回目、“空にキラキラ～”“みんなスヤスヤ～”ではそれを感じられたが、“踊るおもちゃの～”の部分は上手く休符を捉えられない様子。園児の中には、拍を取りながら歌う姿が見られた。

次に3番、4番の歌唱。同じく歌詞カードを指さしながら歌う。カウントを表現し歌い進むと「8分休符」を自然と感じられるようになっていった。

〈伴奏の変化①〉ピアノパートの伴奏部分が「8 分音符」に変化することを伝え、手拍子はそのままに、１、2 番を一度歌ってみる。園児は歌うことに必死の様子で、伴奏の変化が捉えられているかは疑問である。

〈伴奏の変化②〉ピアノパートの伴奏部分が「シンコペーション」に変化することを伝え、そのピアノパートへ耳を傾けるようにしてもらう。手拍子はそのまま続け、1、2番を一度歌ってみる。

次に、ピアノパートの伴奏部分を、1番「8分音符」、2番「シンコペーション」のリズムにして、園児にどちらの伴奏が好きか、考えながら歌うように指示し歌う。歌唱後、挙手にて「歌いやすい、好きなリズム」はどちらか答えてもらうと、5名が「8分音符」、12名が「シンコペーション」となった。

続いて3番、4番の練習。カウントを取り、出だしの「8分休符」を正しくとらえて歌うようにする。出だしだけではなく“みんな楽しく～”や“子ぶたブースカ～”の入り「8分休符」にも注意するよう伝える。

3番4番の練習の前に、「間奏」があることを伝え、それを認識するためにピアニストに「間奏」を3回奏でてもらい、「間奏」後の「歌の入り」を感じてもらう。3回目には、自然と「歌の入り」を感じていたように見受けられる。もう一度「間奏」から

弾いてもらい歌に入り、3 番、4 番と続けて歌う。

4 番の最後に「4 分休符」が挟まれていることを告げ、身振り手振りでそのことを表現し、曲のエンディングとしての効果があることを伝える、再び 3 番、4 番通して歌う。　「4 分休符」を感じて歌えた園児は得意そうな表情をした。

□まとめ

〈オリジナル譜においての歌唱〉

最後に仕上げとして、〈オリジナル楽譜〉にて歌う。「前奏」や「間奏」に注意し、ピアノのリズムを感じながら歌うよう伝える。「間奏」後の「歌の入り」が上手くでき、園児だけではなく、見学の先生方も満足げな表情された。幾つかの伴奏の変化を経て、歌いながら「違い」を感じている園児もいたようだ。

〈歌唱時の立ち方・姿勢・口の開け方〉を伝授した。それは、両足均等に体重をかけ、両手は脱力して両脇に。手持ち無沙汰のときは後ろ手にする。笑顔のような明るい表情のまま、上向きに“ア”を発声しているような口が好ましいと伝える。

□実施しての感想

出前教室が終わり、園児達が自室に戻る際、ひとりの男の子が「1 年生になっても、また来て下さい！」と言って行った。彼にとって、きっと楽しい時間だったこと、歌うことが好きになったのだろうと思うと感慨深い経験だった。

園の希望で 30 分程度の実施のため、1 曲のみとなったことが残念ではあったが、実施後、「正しい歌い方と素敵なピアノ伴奏によって、園児達が見違えるように歌っていて、“こんなことが出来るんだなぁ”と思いました」と園長先生のコメントに、普段との違いを教えてもらい、コメントをくれた男子園児のように、園児達に何か感じるものが残せたのなら、実施した価値があるように思えた。

アンケート回答　②

実施日　11 月 7 日（火）　　園名『　**東部第二保育園**　』(回答数 4)

実施曲［　おもちゃのチャチャチャ　］

♪模範演奏を聴いているときの園児達の様子

・興味深そうに聞いていた。

・始めて聞いた子も多かったと思う。“本物の歌”を聞き、驚いたり喜んだり、目をキラキラさせている子もいた。

・キレイな歌声とピアノとのコラボレーションに子供達は「うわ～っ♪」と目を輝

かせて聴いていた。

・馴染みのある曲なので、良く聞いて、口ずさんでいる子や、手拍子を打ってノリノリな子の姿があった。

♪簡易伴奏での歌唱の様子

・簡易伴奏でも楽しそうに歌っているように聞こえた。

・先生の方をしっかりと向いて、歌詞をさしている指を目で追いながら歌っていた。

・いつも園で弾いている伴奏とは違ったので、あまり大きな声が出ていなかったと思った。

・簡易伴奏なので、リズムも音も少なかったので、歌い難いのかと思った。

♪リズム変化させた伴奏での歌唱の様子　（リズム変化を感じている?!）

・ピアノを聞こうとする子、拍を感じようとする子、自然と拍が感じられている子、ピアノや拍に意識がいきすぎて、声が出ない子など、様々な姿が見られた。

・子供なりにリズムの変化は感じていた様子。しかしそれに合わせた歌い方はまだ出来ない。

①８分音符

・少しゆったりとした感じで歌っているように聞こえた。

・簡易伴奏の時よりも、歌いやすそうで、声も大きく出ていたと思う。

②シンコペーション

・リズムに乗っている感じで、楽しそうでした。

・伴奏が変わったのに気付いたのか、最初は戸惑いがあったように感じられた（声が始め小さかったような気がした）

♪オリジナル譜伴奏での歌唱の様子　（音楽の変化を感じている?!）

・ピアノ伴奏が変化するだけで、歌い方や表情が変わることを実感した。

・最後に通して歌ったときが、一番、声が出ていたように感じた。変化を感じたのか、それとも「最後に」の一言に反応したのか?!という感じだった。

・気持ちよさそうに歌えていたと思う。

・最後に通して歌ったときは今まで一番声も出て歌い、ノリノリな姿も見られた。

・伴奏がオリジナルになって歌いやすかったような気がした。

・音楽の変化を感じ取っている姿もあったと思う。

♪全体を通してのご意見、ご感想、コメント

・笑顔で歌うことの大切さをあらためて知ることが出来た。

・子供一人ひとりの歌への興味・関心の有る無しにも大きく関係しているように感じた。好きな子は伴奏の変化やリズムに乗って、どの場面でも楽しんで歌っているように思った。

・普段何気なく歌っているが、音やリズムを感じられるような声かけも歌を楽しむ為に大切なのだと、勉強になった。

・伴奏ひとつで、子供の歌を引き立てることが出来るという事を改めて感じた。

・リズムを正しく感じさせることも重要な事だと思った。

・プロの方の指導は、子供達に響くなぁと感じた。

・子供達も集中しながら歌うことが出来ていたように思う。また、興味の有無で音楽を感じたり、歌ったりすることに差が見られると感じた。特に女子は“拍”を感じようとしている姿が見られたり、歌おうとする姿もあった。

・伴奏によって歌い方の違いが、少しはあったように感じられた。

3. 東光こども園

実践計画 ③

□実施予定曲

“そらでえんそくしてみたい”　“Let’ｓ Ｇｏ!いいことあるさ”

□目的

『幼児歌唱へのピアノ伴奏の効果』を探る 簡易伴奏とオリジナル伴奏。歌いやすく、より音楽的表現につながるのはどちらか。

□導入

自己紹介＝声楽家の仕事、ピアニストの仕事説明 出前教室の趣旨説明＝ピアノ伴奏の変化によって、歌い方に変化が現れるかどうか

□展開

１．模範演奏＝オリジナル楽譜のピアノ伴奏での歌唱 2. 歌唱練習＝旋律、歌詞を少しずつ教える ３．伴奏を変化させる（歌唱に安定感を感じてから） ①8 分音符

②シンコペーション

□まとめ

オリジナル譜での伴奏＝園児の歌唱の変化、表情を見る
園児なりの感想を聞く
保育士の方々にアンケート回答をお願いする

報告　③　「東光こども園」　実施報告

実施日　１１／９(木) 10:30～11:25　(55 分間)　［ピアニスト：永井典子］

□実施曲

“そらでえんそくしてみたい”　“Let’s　GO!いいことあるさ”

□目的

『幼児歌唱へのピアノ伴奏の効果』を探る
簡易伴奏とオリジナル伴奏。歌いやすく、より音楽的表現につながるのはどちらか。

□導入

〈自己紹介〉にて“ソプラノ歌手”の仕事と“ピアニスト”の仕事を説明し、今回の〈出前教室の趣旨説明〉を伝える。

□展開

『そらでえんそくしてみたい』の〈模範演奏〉を（オリジナル楽譜のピアノ伴奏において）歌唱する。園児は静粛に、集中して聴いていた。前方に掲示したある歌詞カードを読んでいる園児もいた。

〈園児の歌唱〉に入る。歌唱部分は 15 小節、有節形式の 3 番までの曲である。歌った経験のない歌のため、まず、前方に掲示した歌詞カードを指しながら、歌詞を読み聞かせる。

ピアノパートはメロディーと「4 分音符」の簡易伴奏。8 小節ごとに区切って、少しずつ、ゆっくりとメロディーを覚え歌う。3 回ずつ行う。カウントを表現し、休符の効果、大切さを感じさせる。“くもの”と“じゅうたん”は区切って「8 分休符」を感じるように、“そらで～”の入りの「8 分休符」を捉えるように伝える。しかし、「8 分休符」の取り方が困難な様子。私の表現をそのまま真似て、“㋐ そらで～”と歌うよ

うになってしまい、「“ふ”は声を出さず休符を感じて休むだけに」と注意する。同じ箇所、裏声が必要な音域と難しい下行音程に注意するように言う。

Tempo をあげて 1 番を通す。バスを表現している擬音語“ぶるるん、ぶるるーん”の“ん”が大切と知らせる。もう少し Tempo をあげて 1 番を通す。

続いての 2 番の練習は、歌詞に注意しつつ、メロディーが同じなため、歌いやすそうに思えた。

3 番の練習の前に、「間奏」（前奏と同じ）があることを伝え、ピアノのソロに耳を方向けながら、歌への導入を感じるように告げる。ピアニストに「間奏」を 3 回奏でてもらい、園児に間奏後の入りを感じてもらう。ピアノ伴奏の効果を説明する。（音の変化、流れを声で表現しながら）自然と歌への導入を感じている様子の園児が見受けられた。

3 番の練習では、13 小節目が“そらでえんそくしてみたい”が“そらのえんそくしてみたい”に変わっており、曲のエンディングを感じさせる歌詞になっていることを説明し、注意をするよう伝える。小さな、しかし、重要な歌詞変化に少々戸惑っている園児も見受けられた

〈伴奏の変化①〉ピアノパートの伴奏部分が「8 分音符」に変化することを伝え、「前奏」「間奏」と同様、伴奏の変化に耳を傾けるよう注意を促す。歌い終わったら曲が終わるのではなく、ピアノの「後奏」までも“歌”という認識を持たせピアノの音が消えるまで、体を動かしたり、変な動きをしないように言う。

〈伴奏の変化②〉ピアノパートの伴奏部分が「シンコペーション」に変化することを伝え、変化したリズムのピアノパートに耳を傾け、ピアノの変化を感じながら歌うことをすすめる

〈歌唱時の立ち方・姿勢・口の開け方〉を伝授。それは、両足均等に体重をかけ、両手は脱力して両脇に。手持ち無沙汰のときは後ろ手にする。笑顔のような明るい表情のまま、上向きに“ア”を発声しているような口が好ましいと伝える。曲に乗って、表情良く、歌う園児が見受けられた。

〈伴奏の変化③〉オリジナルのピアノ伴奏で 3 番を歌ってみる

園児に「好きなリズム、歌いやすいリズム」はどれだったか、挙手にて答えてもらうと、14 名が①（8 分音符）、10 名が②（シンコペーション）、22 名が③（オリジナル）となった。

〈オリジナル譜において〉、最後に全曲を通す。「前奏」「間奏」に注意し、ピアノのリズムを感じながら、“歌”と“ピアノ”の一体化を感じながら歌うことを伝える。園児達なりに“一体化”を感じているように見えたし、何よりも、プロの歌手になったような雰囲気で歌う園児がほほえましく思えた

『Let’s　GO!いいことあるさ』

開始より約 40 分が経過しており、園児の集中力も限界と思い、クラス担任は 2 曲の指導を依頼されていたが出来るかどうか判断しかね、園児達に 2 曲目に挑戦するか問うてみた。意外にも「楽しいから、まだやる」との答えがあり少々驚いた。集中力を欠いている園児もさすがに見受けられた。

2 曲目の『Let’s　GO!いいことあるさ』は、園児にとって 1 回練習経験がある曲である。歌詞カードを掲示すると「知っている！」の声が上がった。〈オリジナル譜において模範演奏〉を 1 番のみ行う。個人的な感想だが、クラス担任から頂いたこの曲の楽譜をみると、〈簡易伴奏〉のような作りに見受けられる。〈模範演奏〉を聞きながら一緒に口ずさむ園児、歌詞カードを読む園児もいた。

〈園児達の歌唱〉では、カウントを表現し、休符の活用において「歌詞の表現」と「旋律の特徴」が成されていることを説明し歌う。旋律や言葉の切れが良いところ区切りとして、部分練習を取り入れて歌い進むうちに、園児達も曲に慣れ、1 番を正しく歌えるようになった。カウントを取りながら歌うことによって、曲を習得しやすいように思えた。

□まとめ

最後に〈歌唱時の立ち方・姿勢・口の開け方〉を伝授した。それは、両足均等に体重をかけ、両手は脱力して両脇に。手持ち無沙汰のときは後ろ手にする。笑顔のような明るい表情のまま、上向きに“ア”を発声しているような口が好ましいと伝える。

そして、ピアニスト永井典子さんが考えた“素敵な伴奏形”に乗って歌を仕上げた。今回の伴奏形リズム変化に行っていた“8 分音符”と“シンコペーション”を用いたものであった。園児達は、ピアノによって旋律を示さなくとも戸惑うことなく、むしろリズミカルに変わった伴奏に乗って楽しそうに歌っていた。

□実施しての感想

実施の打ち合わせ時から、この園の“音楽”“歌”へのこだわりを感じていた。こちらが提示した曲目ではなく、近々行われるという「音楽会」での演奏曲の指導を依頼された。2 曲とも 1 番のみの指導を依頼されたが、『そらでえんそくしてみたい』は有節形式の歌う部分は 20 小節足らずであったため全曲指導することにした。園児達にとって経験のない曲を、歌詞読み、メロディーを覚え、伴奏形の変化にも対応して歌っていたことに驚きを覚えた。『Let’s　GO!いいことあるさ』は園児が歌うには音程の低さが気になる曲であった。この曲のオリジナル譜の伴奏部分は、単音が多く、盛り

上がりに欠くように思われ、ピアニストによってアレンジされた伴奏は、曲の雰囲気や歌詞の内容を盛り立てるようなもので、見学していた園の先生方に楽譜を所望されたほどだった。

園児が約 55 分の歌の時間を騒いだりすることなく「お利口さん」に過ごしていたことに、日々の幼児教育の質の高さが窺えた。

アンケート回答　③

実施日　11 月 9 日（木）　　園名『　東光こども園　』(回答数 4)

実施曲［ そらでえんそくしてみたい ］　［ レッツゴーいいことあるさ ］

♪模範演奏を聴いているときの園児達の様子

・曲の雰囲気・世界観に吸い込まれていくように、ワクワクした表情で見ていた。2 番 3 番と進んでいくにつれて、リズムをだんだん覚えてきて、口ずさむ姿が見られ、「早く歌ってみたい!」という気持ちになっていたようにおもった。先生の素敵な歌声に子供達もうっとりして聞き入っていた。

・初めての曲でしたが、リズムを取って体を揺らしている子や、先生の歌声を聞いて口ずさむ子など、一人ひとりの感じ方で楽しんでいる様子だった。また、女の子は思わず「きれい～」と言う子もいて、心に響いていた様子だった。

・歌を聴くという経験は初めてなので“出会った瞬間の感激”という表情だった。

♪簡易伴奏での歌唱の様子

・模範演奏後で「早く歌いたい!」という気持ちもあり、張り切っている様子だったので、メロディーが付いた伴奏で、とても入りやすかった。始めて歌う曲だったが、繰り返し歌うことで、子供達にメロディーが入っていくのが良く分かりました。

・模範演奏を聴いて「歌ってみたい！」という意欲が膨らんでから、簡易伴奏での歌唱だったこともあり、とても良い表情で歌っている姿が印象的だった。ピアノが旋律を奏でていたので、やはり歌いやすいようで、少しずつ自信を持って、大きな口を開いて歌っている子が多かったようだ。

・歌詞を目で追いながら、メロディーもインプットするという、少し緊張状態で、メロディーを弾いてもらうと安心して声を出せるようだった。

♪リズム変化させた伴奏での歌唱の様子　（リズム変化を感じている?!）

・歌い込むにつれて、アレンジが進み、子供達も気持ちよさそうにしていた。

・最初は、音を取るのに精一杯な感じで、まだふあんそうだった。伴奏の変化によ

って“ワクワク感”が増していき、「三連符」の伴奏では自分達の声の響きにうっとりする子や、この曲の世界に入っている子がたくさんいた。その反面、メロディーがなくて少し不安そうな子もいたように思うが、2 回目 3 回目と歌い込む度に声も伸び、表情もなくなっていくのが分かった。やはり、曲には、その曲に付けられた伴奏が世界観をつくるのだなと思った。

①８分音符

・メロディーがあるので、その音を聞いて、子供達も楽しそうに歌っていた。シンコペーションとはまた違ったリズムで、曲の雰囲気を味わえていたように思う。(歌うときにあまり身体は動かない)

・メロディーがあったので、歌いやすいようで、元気に歌っていた。一拍目を待ってから歌い出す部分も上手く歌い出すことが出来ていた。伴奏によって子供達なりに、リズムを取っているのだなと感じることが出来た。

・同じリズムであるとテンポよく、メロディーも入っていたので歌いやすそうだった。安心して歌えているようだった。

②シンコペーション

・元気な感じのノリやすい伴奏で、子供達も自然とリズムに乗って、楽しそうに歌っていた。身体が自然と乗っていて、顔の表情も良かったように思う。

・とても歌いやすく、ここの子供達に適した伴奏だと思った。最も自信を持って大きな口で良い表情で歌えていたように感じました。自然とリズムが入ってきているのが気持ちよさそうだった。

・歌い込んでいくと、乗りやすそうだった。

♪オリジナル譜伴奏での歌唱の様子　(音楽の変化を感じている?!)

・始めての曲で、少しずつ覚えてきて、歌えるようにはなったが、メロディーが伴奏で聞こえなくなると、少し自信のないような歌声、歌い方になったように思う。慣れてきて、完璧になった時には、伴奏もとてもキレイで、この“そらでえんそくしてみたい”の曲にあっているのでキレイな歌になると思いました。これで歌えると子供達の自信にも繋がりそうだ。

・初めての曲ということもあり、メロディー伴奏がなくなると声も少し不安そうで、小さくなるように感じた。しかし、最初に感じた“きれい”“美しい”の気持ちはしっかりと感じながら歌っていたのか、表情はとても良かったと思う。

・初めてのだったので、メロディーがなくなると、何となく不安になって、声のボリュームが小さくなるようですが、慣れていくと、とても気持ち良く入り込めるのだと思う。(慣れた子は雰囲気も自信も満ち溢れていました)

♪全体を通してのご意見、ご感想、コメント

・始めて歌う曲のポイントをしっかりと伝え、細かくじっくり練習することで、とても楽しそうに、どんどん自信のある歌声を出していたのは驚いた。歌い込んでいくうちに、歌の中のストーリーに引き込まれていく子供達の様子が、ものすごく伝わってきて面白かった。

・伴奏の違いで、子供達のノリや、歌う表情も変わるということが分かり、伴奏は歌の上で、とても大切な音だということを改めて感じることが出来、貴重な機会となった。

・とても素敵な「うたの時間」だった。初めての曲が、短い時間で、嬉しそうに楽しそうに歌えるようになるのだなと驚いた。また、伴奏の変化によって、曲の雰囲気や子供達の表情、歌声にも変化が生まれることに、とても面白く、楽しかった。

・普段の保育で歌うときにも、良い表情や姿勢などを意識して、伴奏で子供達が歌いやすく、楽しく「うた・曲」に触れることが出来るよう取り組んでいきたいと思った。

・まず、一番に感じたことは「歌ってすばらしい！」ということ。子供達だけでなく、職員達もスーッと歌の世界に引き込まれ、青い空に包み込まれているような気持ちで歌っていた。

・歌詞の素晴らしさ、そしてピアノの音色、ハーモニーがとてもマッチしていて、また、そのアレンジの違いで、歌う側も変化があることを学ぶことが出来、貴重な体験となった。

・じっくり曲を味わう、歌詞を味わう機会はとても貴重だった。担任は簡易伴奏譜を使っているが、色々なリズム、テンポ等に子供達が触れられるよう、工夫がしていきたいと思った。

・先生の笑顔、口の開け方、姿勢、雰囲気など、子供達が自然と真似ているところが見られ、普段の保育にあたっても、その意識をもっていこうと思った。

４．東部川﨑保育園

実践計画　④

□実施予定曲

“ゆりかごの歌”

□目的

『幼児歌唱へのピアノ伴奏の効果』を探る
簡易伴奏とオリジナル伴奏。歌いやすく、より音楽的表現につながるのはどちらか。

□導入

自己紹介＝声楽家の仕事、ピアニストの仕事説明
出前教室の趣旨説明＝ピアノ伴奏の変化によって、歌い方に変化が現れるかどうか

□展開

１．模範演奏＝オリジナル楽譜のピアノ伴奏での歌唱
2. 歌唱練習＝旋律、歌詞を少しずつ教える
３．伴奏を変化させる（歌唱に安定感を感じてから）
①8 分音符
②シンコペーション
③3 連符

□まとめ

オリジナル譜での伴奏＝園児の歌唱の変化、表情を見る
園児なりの感想を聞く
保育士の方々にアンケート回答をお願いする

報告④　「東部川﨑保育園」　実施報告

実施日　１１／１３(月) 10:00～11:00　(30 分間)　［ピアニスト：平林弓奈］

□実施曲

“ゆりかごの歌”

□目的

『幼児歌唱へのピアノ伴奏の効果』を探る
簡易伴奏とオリジナル伴奏。歌いやすく、より音楽的表現につながるのはどちらか。

□導入

〈自己紹介〉にて“ソプラノ歌手”の仕事と“ピアニスト”の仕事を説明し、今回の〈出前教室の趣旨説明（新しい曲を練習)〉を伝える。

□展開

『ゆりかごの歌』を〈オリジナル譜において模範演奏〉を行う。残念ながら静粛な状態から開始できず、聞き慣れない音量の生声に耳をふさぐ子も見受けられた。しかし、2 番のあたりから徐々に静になり、途中から一緒に口ずさむ園児もおり、興味を持ち始めたように感じた。

〈園児達の歌唱〉を開始する。ピアノは、右手でメロディーを奏し、左手は四分音符の簡易伴奏。歌詞カードを示し、カウントを表現しながら先ず 1 番から練習を開始した。出だしの一点ハ音に続く一点二音は、一般的な歌唱曲としても高音な開始音に感じる。園児達は何とか音程を取ろうとしているように思えた。

8 小節ほどの短いメロディーが 4 番まで続く有節形式の曲であるので、2 番、3 番と歌詞カードを注視しながら歌いすすめる。しかし、どうしても開始音が上手くつかめない様子である。そして、途中、“ねんねこ ねんねこ ねんねこよ”の 2 回目の“ねんねこ”にもある同じ一点ニ音が、同様に苦労しているように感じた。裏声の出し方に工夫が必要に感じた。

「前奏」だけを演奏してもらい、ピアノ伴奏は歌への導入を感じさせるような働きをもっていることを伝える。伴奏部分と歌への繋がり部分を覚える。園児達は静粛にピアノの音に集中して聴いている様子で、歌への繋がりを感じられた子は歌い始めるようになった。

〈伴奏の変化① 〉ピアノパートの左手を 8 分音符に変化させ、1 番 2 番と歌う。園児にはピアノ伴奏の変化に耳を傾け、感じるよう伝える。

〈伴奏の変化②〉ピアノパートの左手をシンコペーションに変化させる。前奏後、3 番 4 番と歌う。子供達は、少々、違和感を持ち歌っているように思えた。

〈伴奏の変化③〉ピアノパートの左手を 3 連符に変化させ、指導者佐藤が歌う。園児には、ピアノ伴奏に注意しながら聞くように伝える。歌唱後、「早くなった！」とリズムの刻みが細かくなったことを感じたことを言葉にした園児がいた。

〈オリジナル伴奏譜〉もう一度オリジナル伴奏譜にて指導者佐藤が 1 番のみを歌う。園児には同じくピアノ伴奏に注意しながら聞くように伝え、同時に、〈伴奏の変化①～③〉の時のように、ピアノパートの右手はメロディーを奏で左手は簡易伴奏が良いか、オリジナル譜の方が良いか、好ましいと思うピアノ伴奏形はどれか考えてもらう。歌唱後、挙手を取ると「オリジナル伴奏」を好んだ園児は 15 名だった。

□まとめ

「オリジナル伴奏譜」において、前奏→1 番 2 番→間奏（前奏と同じ）→3 番 4 番と通して歌い仕上げとする。全員起立し、ピアノ伴奏に乗って、なめらかに歌う。短い

時間にも関わらず、メロディーを覚え、メロディーに正しく歌詞が当てはまり、4 番まで通して歌えた。

最後に正しい歌い方、「両足均等に体重をかけ、両手は両脇に。手持ち無沙汰ならば後ろ手に。笑顔で“ア”を発音している表情」が一番良いとを伝え、その状態で全曲通して歌い仕上げとした。

□実施しての感想

仮園舎での実施となり、最初、他のクラスの声が聞こえていたので集中力を欠いているように思えたが、次第に本日の歌へ興味を示してくれた。

『ゆりかごの歌』は、歌った経験のない歌を、歌の伝授とピアノ伴奏の変化の好みを知る曲として、打ち合わせ時にこちらが提示した曲のひとつである。童謡唱歌の一つとして歌い継がれている曲ではあるが、最近、取り入れることは少なくなったと、実施後、園長先生より知らされた。しかし、クラス担任が園児達にこの曲を知っているか問うたところ、幼児向けＴＶ番組で取り上げられている歌だと園児達が話していたという。

短い時間の中で、良く歌いこなしたと感心した。

仕上げの歌唱時に何人か、とても良い表情で、正しい口の開け方で歌っている園児がおり、実施した甲斐があったと痛感した。

アンケート回答　④

実施日　11 月　13 日（月）　　園名『　**東部川崎保育園**　』(回答数 2)

実施曲［　　ゆりかごの歌　　］

♪模範演奏を聴いているときの園児達の様子

・歌声に「すごい！」と反応したり、一緒に口ずさんでいた。

・歌の歌い方に驚いていた。一緒に歌う子どももいた。

♪簡易伴奏での歌唱の様子

・しっかりメロディーを聴いて歌っていた。

・メロディーがわかりやすく、聴き馴染みのない子供にとって歌いやすそうだった。

♪リズム変化させた伴奏での歌唱の様子　（リズム変化を感じている?!）

①８分音符

・リズムを感じ、楽しげになった。

・“ねんねこ”のリズムが分かりやすくなり、歌いやすそう。

②シンコペーション

・ゆったりさが８分音符よりなくなり、元気に歌いがち。

③３連符　（←実施曲によっては行わない）

・曲が速くなったように感じるようだった。

・歌をきいて、“タタタ”のリズムを不思議がっていた。

♪オリジナル譜伴奏での歌唱の様子　（音楽の変化を感じている?!）

・ゆったりと歌っていた。

・たくさんの和音がきれいだと、手を挙げる様子もあった。（歌いやすい）

♪全体を通してのご意見、ご感想、コメント

・すごく子供達が楽しんでいた。とてもいい経験になりました。

・単音で歌うときよりも、メロディーや歌う曲の雰囲気を感じながら歌う様子があった。

Ⅲ．まとめ

今回の実践を経験して、幼児の歌や音楽への興味･関心の差があるにしても、幼児の歌唱にもピアノ伴奏の効果･影響はあるものと考える。しかし、アンケート回答の中にはそれを否定するようなものもあった。（東部保育園）

保育士へのアンケート回答に「伴奏ひとつで、子供の歌を引き立てることができるという事を改めて感じた（東部第二保育園）」と書かれているように、キャリアの長い保育士の方でさえ「ピアノ伴奏」への意識が高いわけではないようである。

実践の中で一番「ピアノ伴奏の効果」を感じられたのは、東光こども園での『Let's Go! いいことあるさ』をピアニスト永井さんがアレンジした伴奏で歌ったときである。子供達が生き生きとし、歌声も大きくなり、いつもより格好良く歌えている自分に感動しているような歌い方になっていた。同園のアンケート回答にも「伴奏の違いで、子供達のノリや歌う表情も変わるということが分かり、伴奏は歌の上で、とても大切な音だということを改めて感じることが出来…」とあった。

「保育園幼稚園の先生はピアノが弾けて…」と当たり前のように考えていたことが最近では違ってきているように思われる。幼児向けの歌唱曲集では、“簡易伴奏による”

を謳っている楽譜が多く出版されている。新潟中央短期大学幼児教育科ピアノ表現でのピアノ・グレード試験では、オリジナル伴奏譜または簡易伴奏譜のどちらでも受験できる。“歌うことに支障をきたさない伴奏”が合格ラインでもある。実践した園の園長先生が「私が若い頃は“簡易伴奏譜”なんてものはなく、オリジナルを必死で練習したか、もしくは自分でコードを考えて弾きやすいものを考えたものです」と語っていた。自分で工夫するということが実践での役に立ち、その後の糧となったのではないだろうか。

新潟中央短期大学幼児教育科で学ぶ学生たちのピアノへの意識は、「グレード試験に合格するため」と考えている者が多いように感じる。自分が奏でるピアノ伴奏が、幼児達の歌唱に影響を及ぼしている認識を強く持ち、ただ間違わずに弾けるだけでなく、歌唱がより音楽的表現に繋がるような“ピアノ表現”となるよう、日々の習練の重要性を伝えつつ、教授指導すべきと考えるものである。

追　記

アンケート回答の中に、「始めて歌う曲のポイントをしっかりと伝え、細かくじっくり練習することで、とても楽しそうに、どんどん自身のある歌声を出していたのは驚いた。歌い込んでいくうちに、歌の中のストーリーに引き込まれていく子供達の様子が、ものすごく伝わってきて面白かった」（東光こども園）とあり、幼児への歌唱指導の重要性を感じ、機会があれば、“歌”に重点おいた出前教室を実施したいと考える。

謝　辞

園行事「お遊戯会」「音楽会」の開催日が近いにも関わらず、実施にご協力下さった東部保育園、東部第二保育園、東光こども園、東部川﨑保育園の年長クラス園児、並びにクラス担任、職員の方々、突然の申し出を快く承諾くださった園長先生方、東光会理事長長尾先生、そしてお忙しい中お付き合いくださったお二人のピアニスト、平林弓奈さん、永井典子さんに心より感謝申し上げます。

参考

１．幼児のための音楽教育　教育芸術社

図１.『おもちゃのチャチャチャ』オリジナル譜 抜粋

図２.『おもちゃのチャチャチャ』簡易伴奏譜 抜粋

図３.『とんでったバナナ』オリジナル譜 抜粋

図４.『そらでえんそくしてみたい』抜粋

図５.『Let's Go!いいことあるさ』抜粋

図６.『ゆりかごの歌』抜粋

図７．簡易伴奏譜例 一部分

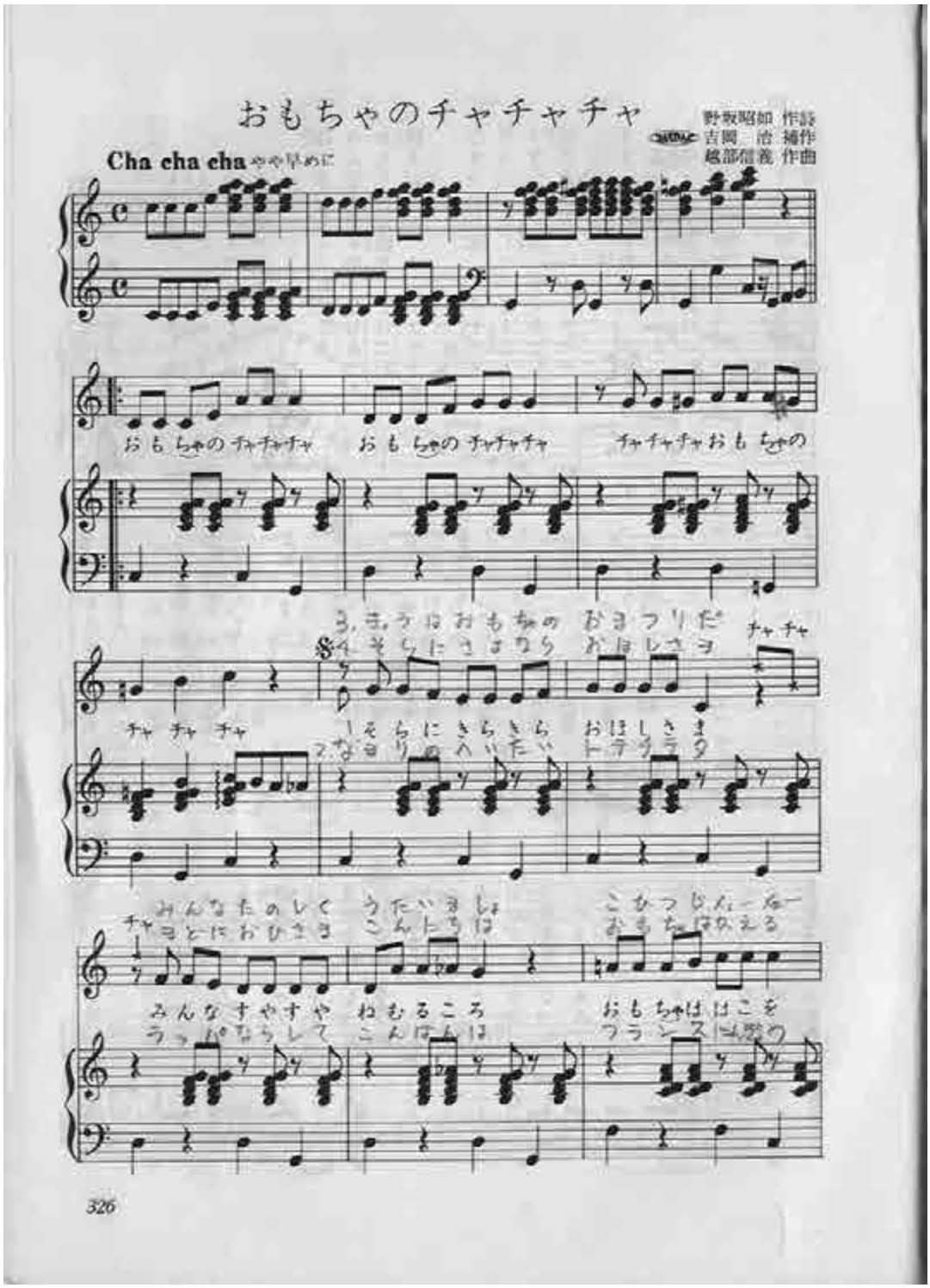


図１.『おもちゃのチャチャチャ』オリジナル譜　抜粋

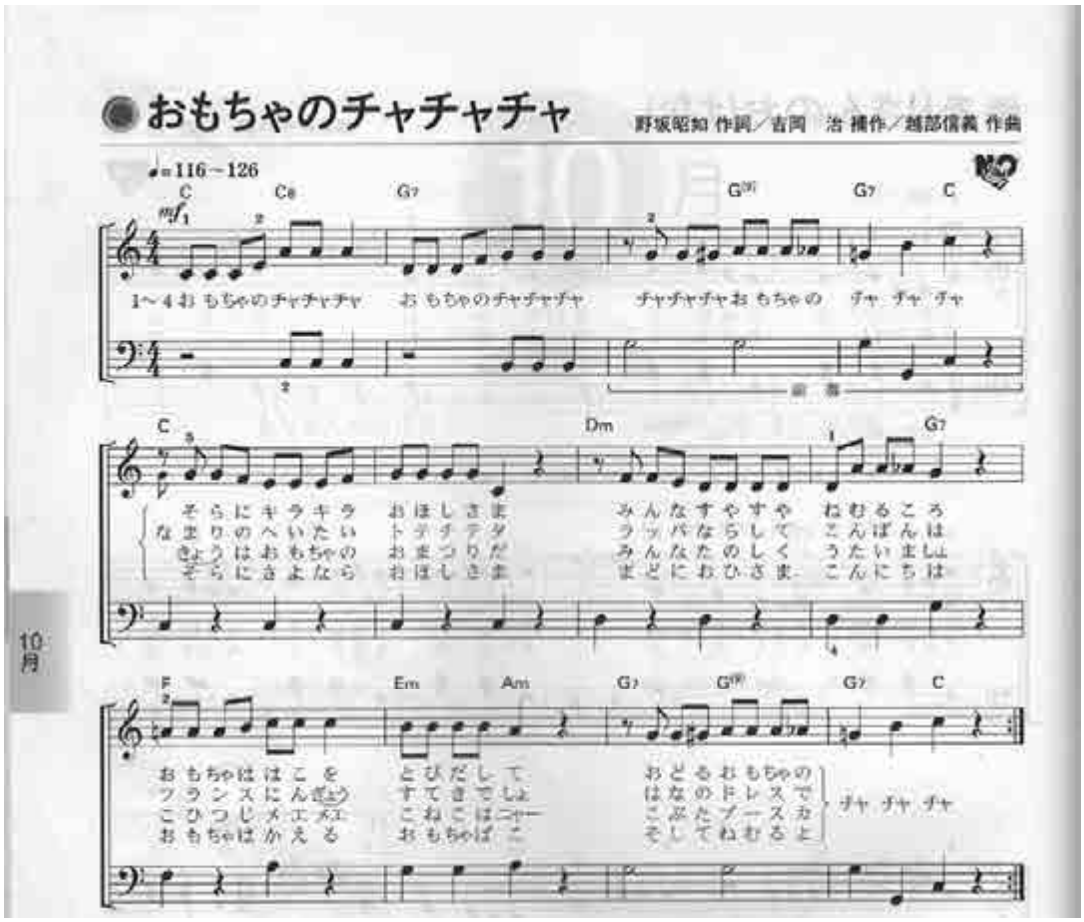


図２.『おもちゃのチャチャチャ』簡易伴奏譜　抜粋

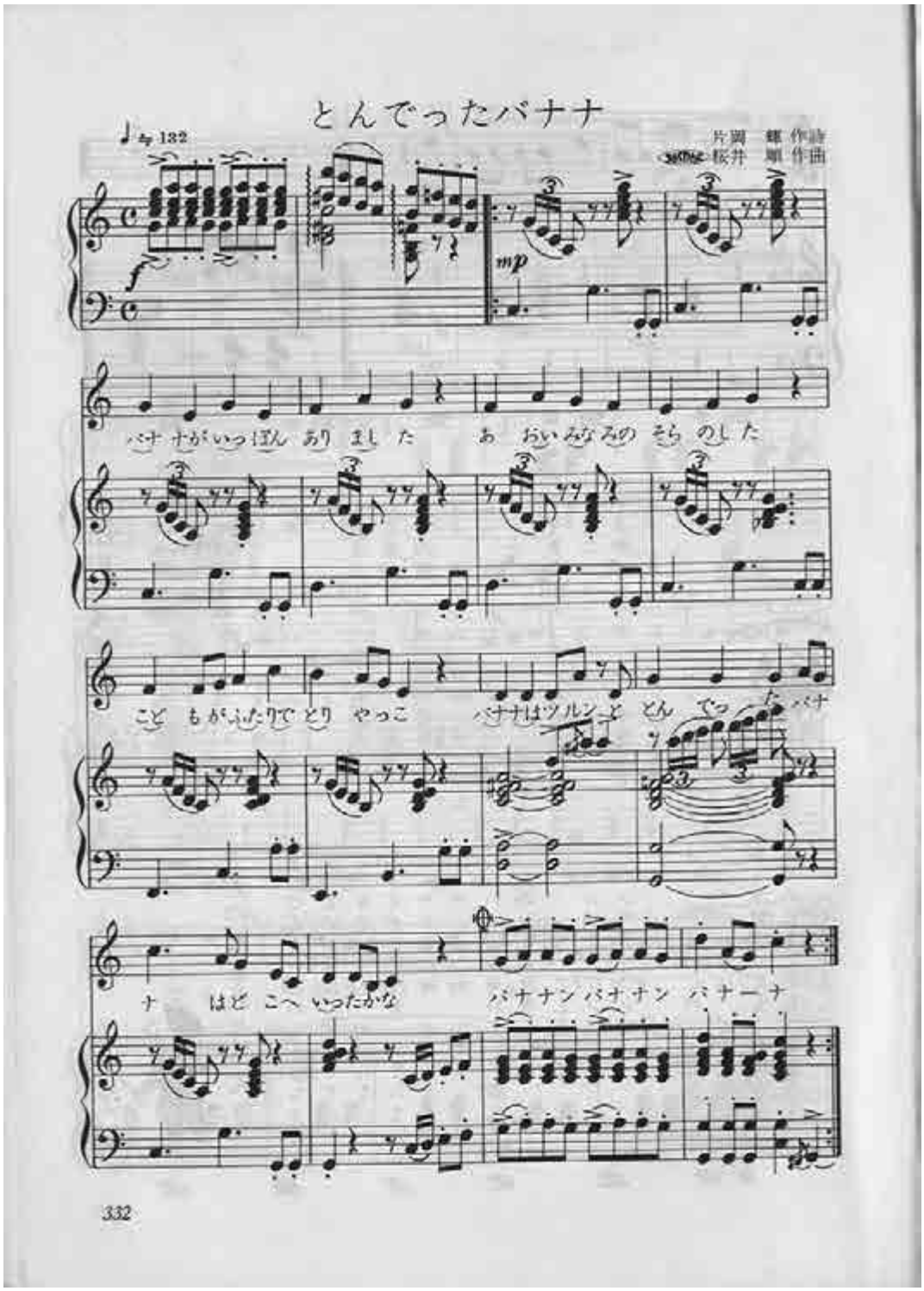


図３.『とんでったバナナ』オリジナル譜　抜粋

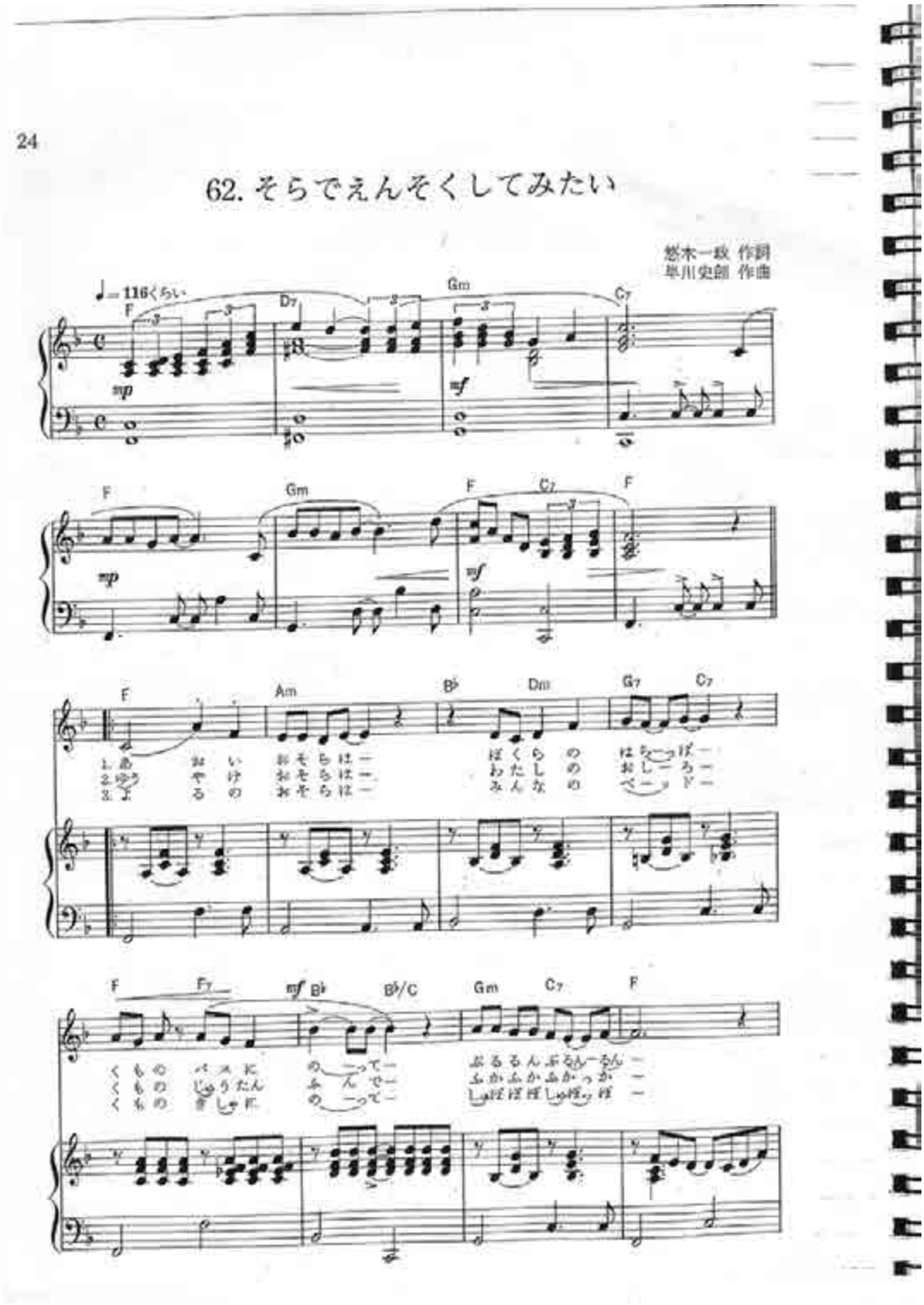


図４.『そらでえんそくしてみたい』　抜粋

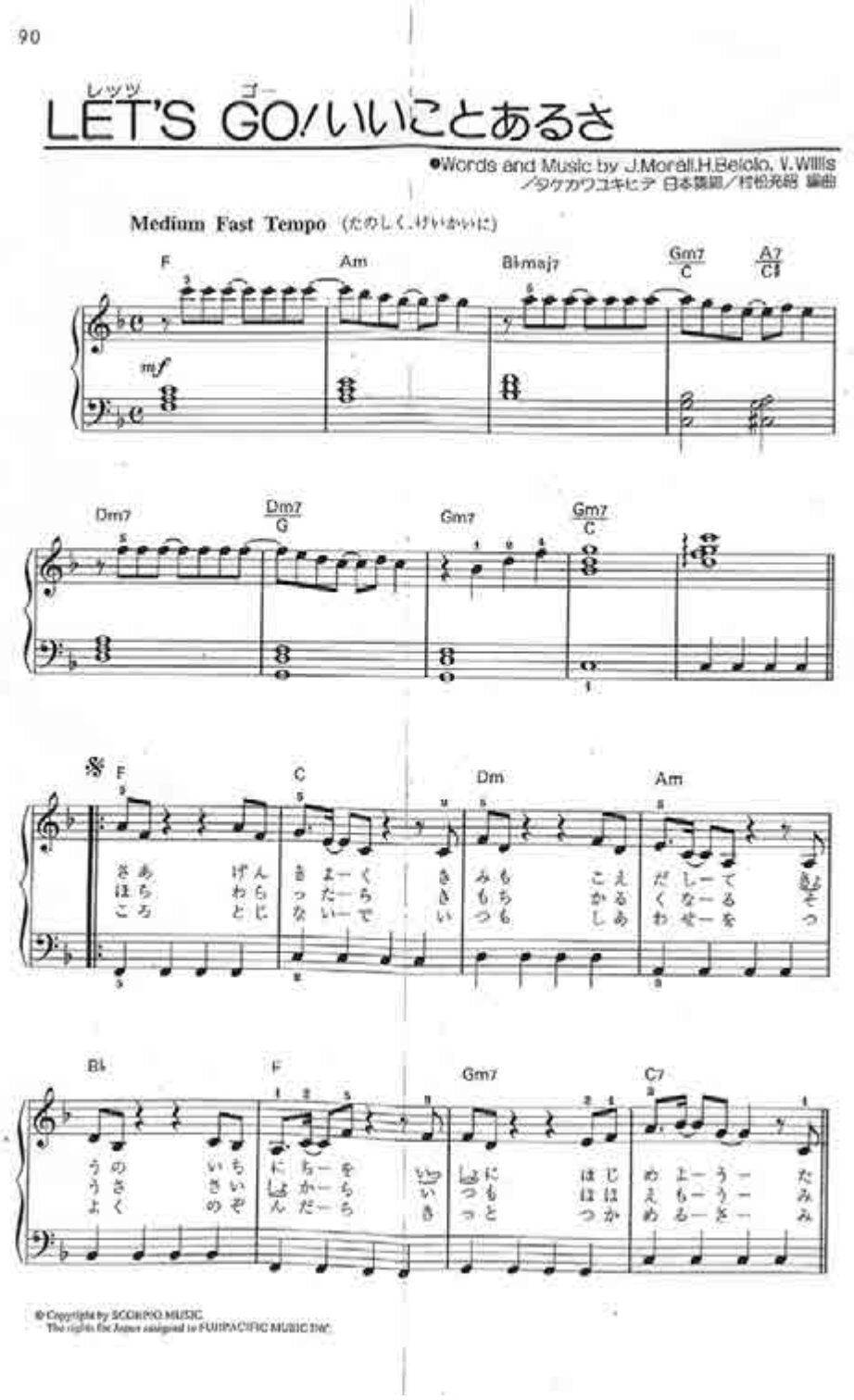


図５.『Let’s Go!いいことあるさ』　抜粋

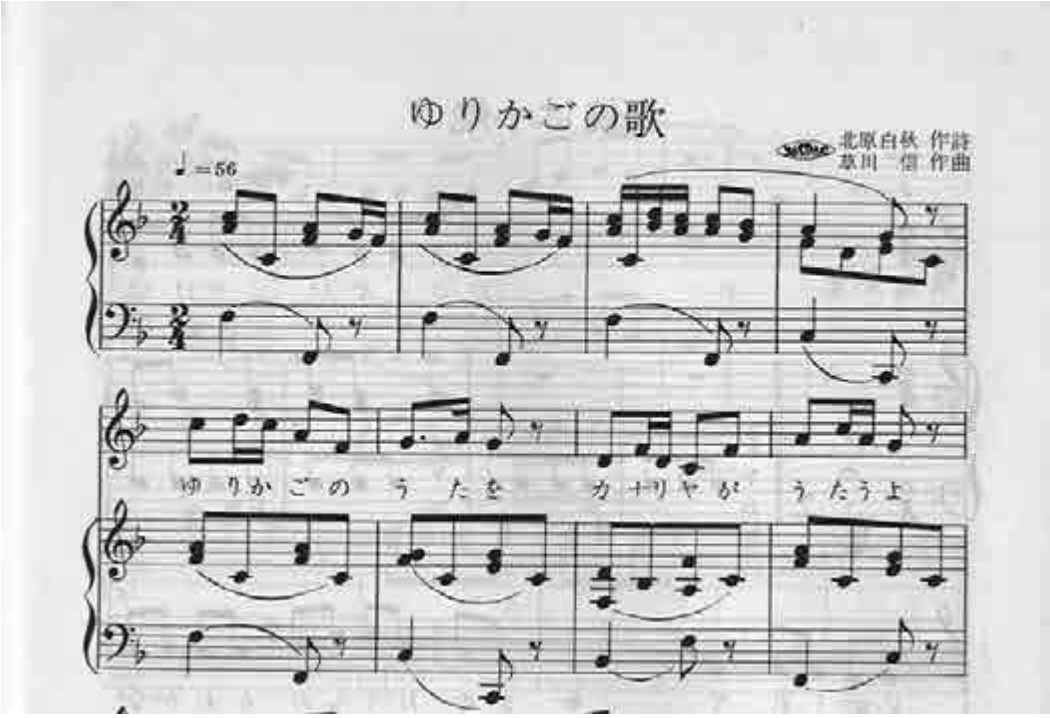
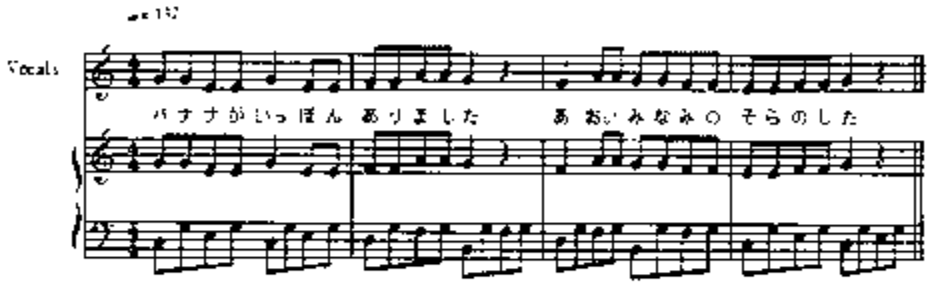
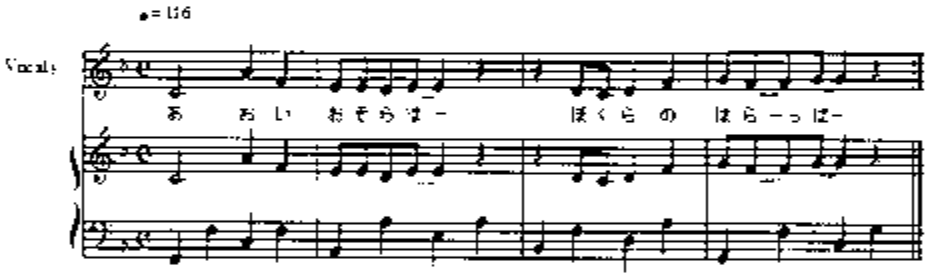


図６.『ゆりかごの歌』　抜粋

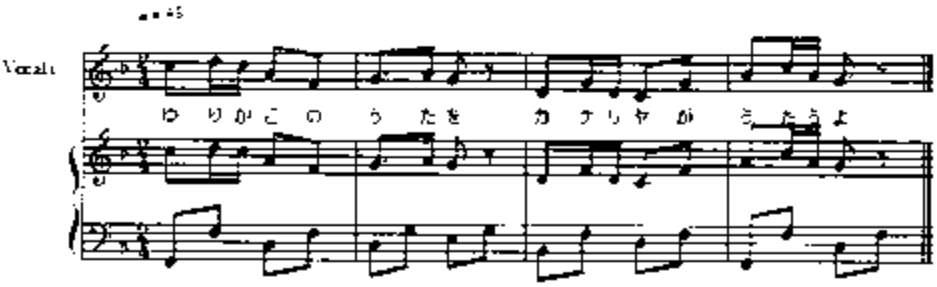
Score とんでったバナナ（簡易伴奏譜例）



Score そらでえんそくしてみたい（簡易伴奏例）



Score ゆりかごの歌（簡易伴奏譜例）



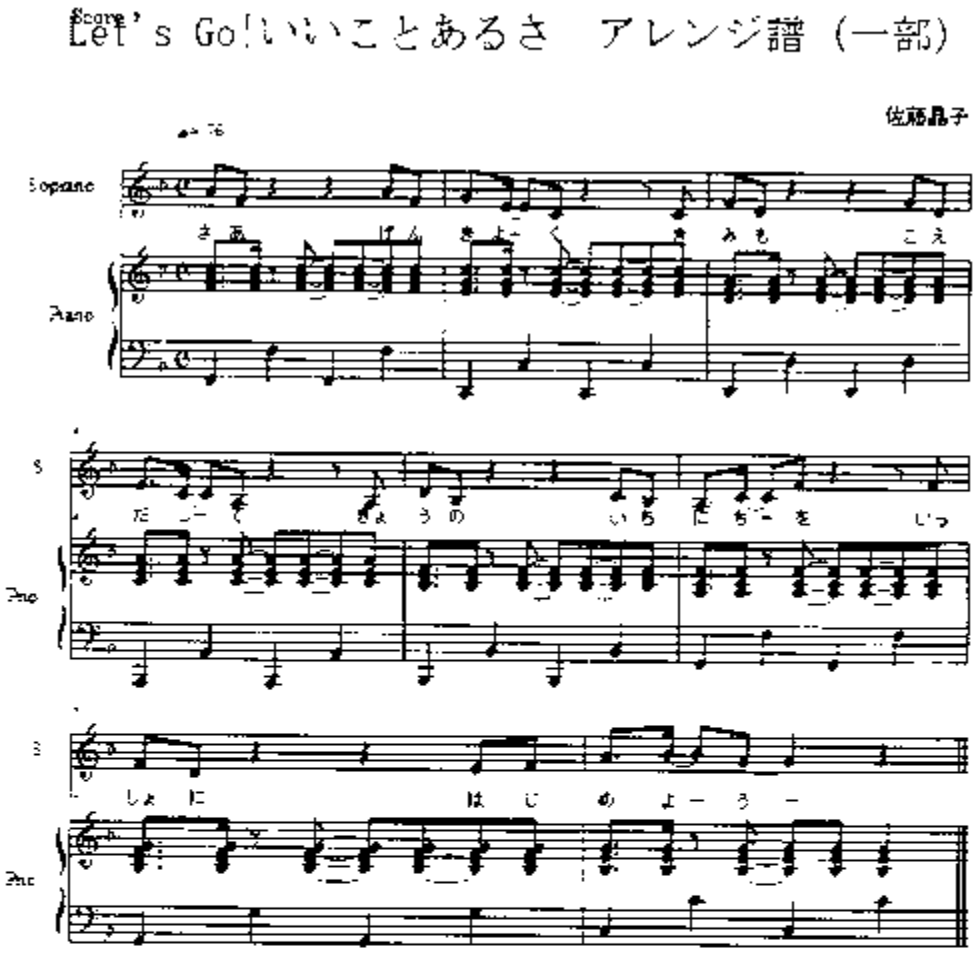


図７．簡易伴奏譜例 一部分